

# 根木内歴史公園の歴史概要

根木内歴史公園は「歴史とみどりと水の調和」をテーマに、平成7年(1995年)から公園にする取り組みが始まり、平成18年(2006年)4月に開園しました。この公園は市民(根っ子の会)と行政が一体となった運営を目指しています。

この公園は、戦国時代の城跡につくられています。享徳の乱(1454~1478年)とよばれる戦乱から関東は戦国時代に突入しますが、そんな15世紀後半に根木内城は築城されました。築城者はのちに、小金城主として東葛地域に君臨することになる高城氏、または高城氏の主人筋にあたる原氏とも考えられます。

根木内城跡は三方を谷津や低地に囲まれた細長い舌状台地にあって、規模は東西最大幅230m・南北550m、少なくとも7つの郭を持っていて、台地の先端から奥にかけて郭を連ねて防御を固めるという、このような地形ではよく見られる形態でした。現在は城跡の中央部を南北に国道6号線が貫き、西側は住宅地となりましたが、東側の根木内歴史公園内には敵の侵入を防ぐ土塁や空堀の一部、郭と郭をつなぐ土橋が残っています。そのまわりの湿地帯は自然の要害としての機能を果たしていたでしょう。

国道を挟んで向き合っていた行人台城跡は、墓地が要塞に転用されていて生活痕跡に乏しく、小金宿・小金城に近いことから根木内城を攻撃対象とする拠点ではなく、根木内城を補う要塞ではなかったかと考えられています。

高城氏が小金城を本拠地として東葛地方を支配したのは、天文7年(1538年)の第一次国府台の合戦後、勝利した原氏が小弓(千葉市)に復帰したころです。時を同じくして上総・下総へ里見氏が進出し始めました。高城氏は脅威である里見氏への対抗上、北条氏に接近しました。そのことから小金周辺は、北進する北条勢力とそれに対抗する反北条勢力(里見氏・太田氏・上杉謙信)が衝突する中間地帯となり、常に軍事的緊張を強いられ、高城氏による、小金城の軍事的整備が必要となってきました。根木内城はその小金城を東から守る軍事拠点としての役目を担っていたと考えられます。

永禄7年(1564年)の第二次国府台の合戦で、反北条氏方の里見氏は撤退し、太田氏は没落しました。やがて上杉謙信も去って、情勢が変わり高城氏にとって当面の脅威がなくなりました。ますます北条氏とのつながりが強くなり、北条氏との主従関係が生まれたことで、今度は重い軍役に縛られるようになりました。天正18年(1590年)の小田原の陣で、天下統一をかかげ、兵をあげた豊臣秀吉によって北条氏は滅亡、小金城主高城氏は、北条氏に対しての軍事的役割を終え、根木内城も小金城の支城としての役目を終えました。

この歴史ある緑豊かな公園を、市民みんなの力で守り続けていきたいと願っています。

## [参考文献]

小金城主高城氏	松戸市立博物館	千葉県の歴史	石井進 宇野俊一編 山川出版
戦国の城をさぐる	松戸市立博物館	中世城郭研究論集	村田 修三 新人物往来者
国府台合戦を点検する	千野原 靖方著 崙書房	中世の空間を読む	五味 文彦 吉川弘文館